平成２７年３月２３日

豊川市議会議長　今泉　淳乙　様

市民文教委員長　堀内　重佳

市民文教委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務についての調査結果を報告いたします。

１　調査項目

（１）公共交通システムついて

本市のコミュニティバスがスタートして４年目となりました。そのなかで収支率等の課題がある状況です。継続的な改善もされているようですが、重要事項と考え調査を行いました。

（２）市民活動の活性化について

本市の市民連携強化を図るために、豊川市地域活性化事業支援補助金制度を設けているが、今後自治組織外も対象とした新たな補助金制度を検討する必要性から、重要事項と考え調査を行いました。

（３）教職員の研修の取り組み状況について、教育相談体制について

本市教育委員会は、今年度「わかる授業の実践に向け教科指導と教員の資質向上に力を入れる」を施策にしています。長野市の「教育センター」で教職員研修が統合され運営されていると聞き、重要事項と考え調査を行いました。

２　調査内容

別紙＜調査経過＞のとおり、本市の現状把握のための勉強会を７月３日に開催し、先進都市の視察の後、視察内容を踏まえて委員間での意見交換を行いました。「公共交通システム」については、さらに調査をするため再度先進都市の視察を行いました。

３　調査結果

（１）－１「デマンド交通システム事業」について

①本市の現状

豊川市は１市４町で合併し、地域の一体化を図る目的でコミュニティバスを平成２３年１１月に９路線で運行を開始し、平成２４年１０月に新たに１路線が加わり、現在は１０路線で市内の移動の足を確保しています。平成２５年５月には新市民病院が移転し公共ネットワークが大きく見直されました。そのようななかで、全体では徐々に利用者は増えているものの、各路線の状況をみると利用者数や収支率等において差があるなど、課題があるように思われます。なお、定期的な公共交通の評価及び継続的な路線の見直し・改善につきましては、「豊川市地域公共交通会議」で実施されています。

②先進都市の状況

事前に電話などで予約した人の家や指定する場所を順次まわりながら、それぞれの目的地に降ろす「乗合タクシー」方式の交通システムで、路線バスに比べ多様な需要に対応しやすいのが特徴。また安曇野市の交通システムは、デマンド交通と定時定路線で棲み分けをしています。

③総評

主な利用者は、交通弱者の６０歳以上７７％、女性７８％、障がい者３８％。主な行先は、病院、スーパー、福祉施設が中心となっています。利用者や行先などのニーズをしっかりとらえており、デマンド交通と定時定路線で棲み分けをされています。それにより、収支率も２２％となっており成功している印象がありました。デマンドに関しては、バス路線や鉄道網がなく、人口の少ない高齢世帯が点在する地域での採用が多い特徴があると思われます。

（１）－２「あやべ市民バス（あやバス）」について

①本市の現状

（１）－１①と同様

②先進都市の状況

既存のバス会社が経営破たんしたため、「あやバス」を導入したきっかけとなっています。綾部市の地域的特徴（施設は中心地に集中）を活かし、バス路線は循環ではなくピストンのパターンとしている。それにより「パターンダイヤ」を導入されておりさらに利用しやすくなっています。

③総評

主な利用者は高齢者だけでなく、学生も約２０％利用されている。これは高校生からも利用促進の意見をもらった結果、通学にも利用される結果となりました。また、長寿・通学・通勤定期券の発行や、祭りでの一日無料等の利用促進を図っています。

豊川市においては、核となる地域がまとまっているわけではなく、病院、スーパーや公共施設等が市内に点在しており、綾部市とは地理的状況が異なるため、そのまま導入することは難しいと思われます。また、情熱的な市民と職員の存在が不可欠と考えます。

（１）－３「上限２００円バス」について

①本市の現状

（１）－１①と同様

②先進都市の状況

雪だるま式に増えるバス事業支出のなか、過疎地域の路線バスの大胆な改革を行う必要が出てきたため、乗員を倍増させるなどの市民に喜ばれるバス交通を目指すことになりました。そこで、運賃区間最大１，１５０円だったものを上限２００円へ大幅値下げを実施しました。その結果、乗客数２．３倍、運賃収入１．３倍、市助成額３，８００万円を削減することに成功しました。収支率においても京丹後市管内については３０％を確保している状況です。

③総評

まず「乗って守ろう」的な発想は通用しない、「乗っていただけるバス」的な発想でないと成功しないと話がありました。そのために、市民のニーズ調査も公共交通会議やアンケート調査だけに頼らず、直接高校生などとの意見交換会を積極的に行い、出来る限り意見を取り入れる努力が見られます。その結果、この姿勢は住民の心を動かす素晴らしいものとなっています。また乗客の半数は高校生となっており、高校進学の選択肢の広がりと保護者の送迎負担軽減にもつながっています。

（２）「市民活動の活性化」について

①本市の現状

豊川市は町内会に対する豊川市地域活性化事業支援補助金制度を実施しています。補助金対象事業は８つの事業からなり、制度利用により住民相互の絆の強化、地域住民の一体化が図られる等の効果がみられます。補助金交付実績は、平成 22 年度から平成 26 年度で、26 件、207.6 万円です。

②先進都市の状況

市民活動助成制度は、新たに市民活動を立ち上げるため、または、既存の活動をさらに発展させるための制度で、平成 19 年 9 月から募集をしています。助成制度には現在 2 種類あり、10 万円コースと 30 万円コース（平成 26 年度提案から）です。これは、設立して 5 年が経過し申請件数が伸び悩むなか、「もう少し大きな事業にも挑戦したい」との声があり、新たに 30 万円コースを追加しました。事業選定にあたっては、助成金は市民、市民活動団体及び事業者からの寄付金を原資にしている点、また市の公金を使用していることから、公開プレゼンテーションとなっています。

③総評

松戸市は、人口も多く、行政がサポートする市民活動比重は豊川とは違い大きくないと感じると同時に、市民活動を行政がサポートする難しさも感じました。本来、市民の自発的な活動である市民活動が行政のサポートがないとやっていけないとなると、団体に所属する人々が行政に依存してしまい、自立した団体を育てていくこともままならなくなってしまうのではないかと感じます。その意味では、「まつど市民活動サポートセンター」の指定管理者は自ら考え行動し、「Let's 体験！！」という事業を行って、市民活動が活性化されると同時に市民活動を支える側も成長しお互いが相乗効果で成功しているように感じました。

（３）「教職員の研修の取り組み状況、教育相談体制」について

①本市の現状

教育委員会は、今年度「わかる授業の実践に向け教科指導と教員の資質向上に力を入れる」を施策にしています。

②先進都市の状況

教職員研修の一貫した体系のもとでの実施及び教育相談に関し、相談者の利便性と情報の共有による適切な相談業務を実施するため、平成 26 年 4 月に 3 つのセンター（理科教育センター、教育相談センター、視聴覚教育センター）を統合したところです。学校現場に密着した取組みとして、障がいのある児童生徒、障がいが疑われる児童生徒、支援の必要な児童生徒に対して、就学相談や学校訪問相談を通して、適切な支援援助ができるように努めています。その 3 つの柱が「就学相談」「学校訪問相談」「窓口、電話相談」です。

③総評

新しい体制は、始まったところであり効果はまだわかりません。長野市は中核市であり、教職員研修の取組みについては、豊川市に当てはめることはできません。しかし、教育相談については、学校現場では同じような課題があると認識しました。また相談内容が年々多様化しているようです。

4　市民文教委員会からの提言

（１）公共交通システムについて

①市民ニーズの把握について

・市民のニーズを把握するために、公共交通会議やアンケート調査だけに頼らず、市民との意見交換会を積極的に行い、出来る限り「生」の意見を聞くことが必要であると考えます。

・ターゲットの明確化の必要性を感じます。

②運行効率向上について

・競合路線（バス、鉄道）との重複解消を図り、路線組合せの再検討が必要であると考えます。

・利便性向上のために、パターンダイヤや時刻表の見直し（官民共同）の検討が必要と感じます。

・豊川市のコミュニティバスは、全て定時定路線で運行されていますが、収支率の低さや利用者の少ない路線もあります。課題の解決策として路線によってデマンド的発想の路線の検討が必要と感じます。

（２）市民活動の活性化ついて

・本市の補助金制度もある程度の効果はあると思います。しかし、時間が経過するとマンネリ化に陥る可能性もあります。そのため、補助金制度以外のキーマンの育成や各活動団体のレベルアップが必要と感じました。また、「B-1 グランプリ」では多くのボランティアが参加した実績があり、特に中・高生には、ボランティアが身近なものになっています。そのため裾野を広くできる土壌があると考えられるので、将来を担う中・高生がボランティアに参加する仕掛けを官民で検討していただきたいと感じます。

（３）教職員の研修の取り組み状況について、教育相談体制について

・相談内容が年々多様化しているなか、保健・福祉・医療・教育が連携して、乳幼児期からの発達に伴う相談を引き継ぎ、その後就学相談へとつなげていく体制の整備は、豊川市でも充実していく必要があるのではないかと感じます。

別紙

＜調査経過＞

勉強会の実施

平成２６年７月３日(木)

市民部及び教育委員会より本市の状況説明

視察の実施

平成２６年　７月１４日(月)

千葉県松戸市「市民活動活性化について」

平成２６年　７月１５日(火)

長野県長野市「教職員の研修の取り組み状況について、教育相談体制について」

平成２６年　７月１６日(水)

長野県安曇野市「デマンド交通システム事業について」

平成２６年１０月２９日(水)

京都府綾部市「あやべ市民バス（あやバス）について」

平成２６年１０月３０日(木)

京都府京丹後市「上限２００円バスについて」

委員での自主体験

平成２６年１１月１０日(月)or１２日(水)

市内バス路線「豊川市１日フリー乗車」を体験乗車